

山田昌弘 『近代家族のゆくえー 家族と愛情のパラドックス』

「構造によって家族・個人は動かされている」

「構造を逆手にとって家族・個人を開くこともできる」

鈴木繁夫

山田の社会学の手法

▶ パラドックス

- ▶ 通常の観念にたいして逆の主語-述語→意外性
- ▶ 人々の感情にフックを掛ける→山田の言葉への傾聴
- ▶ 例「子どもを大事にすると子どもの数が減る」「男女交際が増えると結婚が遠のく」

▶ 構造

- ▶ 統計の利用→理念と現実のあり方の違い
- ▶ 現実のあり方を支える構造
- ▶ 構造は、通時性と共時性によって作られる
- ▶ 現実の家族がもつマイナス面は、構造の責任→理想論を捨てる
- ▶ マイナス面を大局的に眺める視点の提供→生き抜く希望をもてる



序章 家族愛の強調が生み出すパラドックス

- ▶ 現代日本の家族：
 - ▶ 愛情をあおる社会装置
 - ▶ あおることで、個人の心情の束縛がおこる



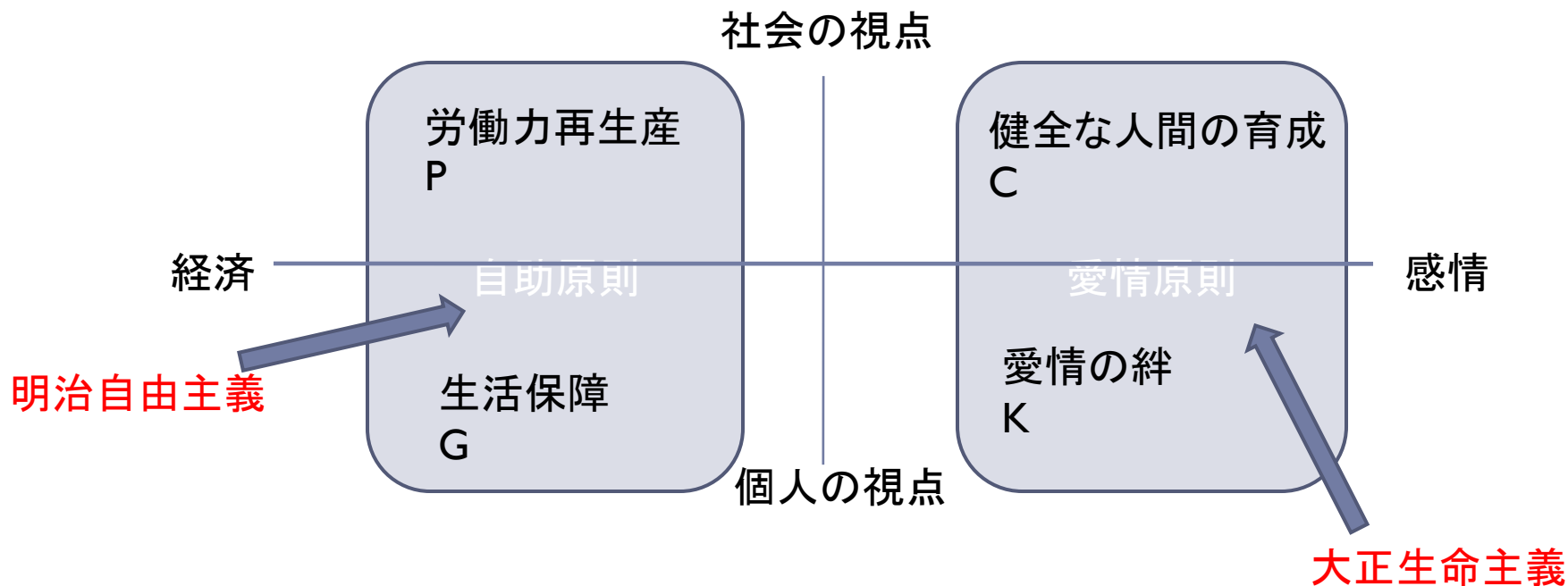
1章 近代家族のアイデンティティ：家族への 思いこみ

- ▶ 家族の安定
 - ▶ 個人の幸せ＝社会の安定
 - ▶ 家族のあり方と変化は
 - ▶ (1)個人に意識・感情の変化を生む
 - ▶ (2)社会構造に作用し、影響を受ける←これはレトリック
 - ▶ 「家族への関心が家族を存在させている」←これは心理言語学・現象学
 - ▶ 近代社会とともに近代家族は成立し、女性を抑圧する装置として機能している
-



1章 近代家族のアイデンティティ： 家族の基本性格

- ▶ 家内領域は公共領域から分離している
 - ▶ 家内領域＝理念上の自由な活動 ＋ 生活上必要な労働
- ▶ 家族の四類型



1章 近代家族のアイデンティティ： 家族の危うさ

▶ 基本性格

- ▶ 自助→他人の生活に責任は持たない
- ▶ 愛情→他人からの情緒的満足は禁止 ←不倫という特異点

▶ 危ういバランス

- ▶ PG+CKという
- ▶ 受益者にして負担者という

▶ ダメ予定調和

- ▶ 社会機能(P)をきちんとやる→個人は幸福(G)
 - ▶ 個人は幸福(G)を追求→社会機能(P)をOK
 - ▶ 社会機能(P)をきちんとやる→個人は幸福(K)
 - ▶ 個人は幸福(K)を追求→社会機能(P)をOK
-



1章 近代家族のアイデンティティ： 家族を支える装置

- ▶ **イデオロギー**：正しいと信じられている信念体系
 - ▶ 「責任負担は愛情」
 - ▶ 「家族であれば愛情が自然と湧く」→愛情の強制
 - ▶ 「女性は感情的存在 ∴公的領域には不向き」
 - ▶ 「母性愛があるから子育てに向いている」
 - ▶ 「国は家族を機能させる義務がある」



2章 近代家族と愛情の諸相： 愛情の意味

▶ 感情のモデル

- ▶ 表出抑制の規範(キスしない)
- ▶ 適切性の規範(葬式で笑わない)
- ▶ 体験への価値付与(平気の平太はダメ)
- ▶ 特定体験への価値付与(愛情はすばらしい)

▶ 愛情のパターン

- ▶ コミュニケーションから生じる感覚的な体験
- ▶ 行動を記号化するもの

▶ 愛情の規範

- ▶ ロマンチック・ラヴ＋母性愛＋家族愛
-



2章 近代家族と愛情の諸相： 母性愛の形成

- ▶ 近代の創出
 - ▶ アリアスとバタンデール



2章 近代家族と愛情の諸相： 恋愛と近代家族

▶ 恋愛

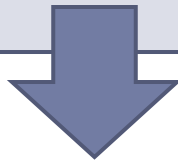
- ▶ 親近感をもちたいという欲求
- ▶ 個々人の主観が構成するもの ← いままで議論が逆

▶ 社会による、恋愛と結婚の協同

- ▶ 恋愛は結婚とは分離した制度 → 妾、少年愛
- ▶ 恋愛の抑制 → ヘジャブ

▶ 恋愛は結婚したい気持ち → 恋愛結婚

- ▶ 相手にコミュニケーション欲求を抱いても、それは恋愛であってはならない



- ▶ 恋愛基準の明瞭化 + 恋愛結婚の社会通念化
-

3章 家事労働のしくみ：基本性格

▶ パーソンの家族論

- ▶ 社会発展＋システム複雑化→機能分化の必要
→分化に対応→システム維持
- ▶ 家族機能の分化と縮小
 - ▶ 子供の社会化(C) + パーソナリティの安定化(K)
 - ▶ 家族内労働のうちP(手段的役割)を夫一父、G(表出的役割)を妻一母。
 - ▶ 生産機能を家族の外に出す + CKGも国家に委託していく

▶ 家事労働

- ▶ 賃労働との対比で定義
 - ▶ 賃金なし、量に計算されない、競争がない
- ▶ 三要素
 - ▶ 機能(市場調達コスト)、感情(楽しさ)、規範(きまりごと)



3章 家事労働のしくみ：意味と専業主婦

▶ 私的動機づけ

- ▶ 愛情表現
- ▶ 家事のインフレ(私しかできない)

家事は楽にならない

▶ 専業主婦

- ▶ (1) 家族外労働をしない
- ▶ (2) 情緒的女性にふさわしい天職
- ▶ (3) 中産階級のシンボル←上流階級女性と庶民女性へのアンチテーゼ
- ▶ (4) 財産と家柄は不問、働き者であることも不問

○ 情緒的で家事をする人→女性である

× 女性である→情緒的で家事をする

○ 家事が嫌いだと女性だと思われたい→家事は喜びだと感じるようにしむけられる



3章 家事労働のしくみ：意味と専業主婦

▶ 近代イデオロギー

- ▶ 男性＝ 外で仕事をし、家族にお金をもたらす人
- ▶ 女性＝ 愛情表現として家事労働をする人
- ▶ →女性による家事労働はMUST



4章 近代家族のゆくえ：現代化

▶ 現代

- ▶ 高齢化→家族負担格差の増大
- ▶ 個人化→階層間の格差と性的分業への覚醒
- ▶ 多様化→強いられた現象

▶ 高度資本主義

- ▶ 良質の労働者・消費者の育成
- ▶ 生活水準の上昇圧力

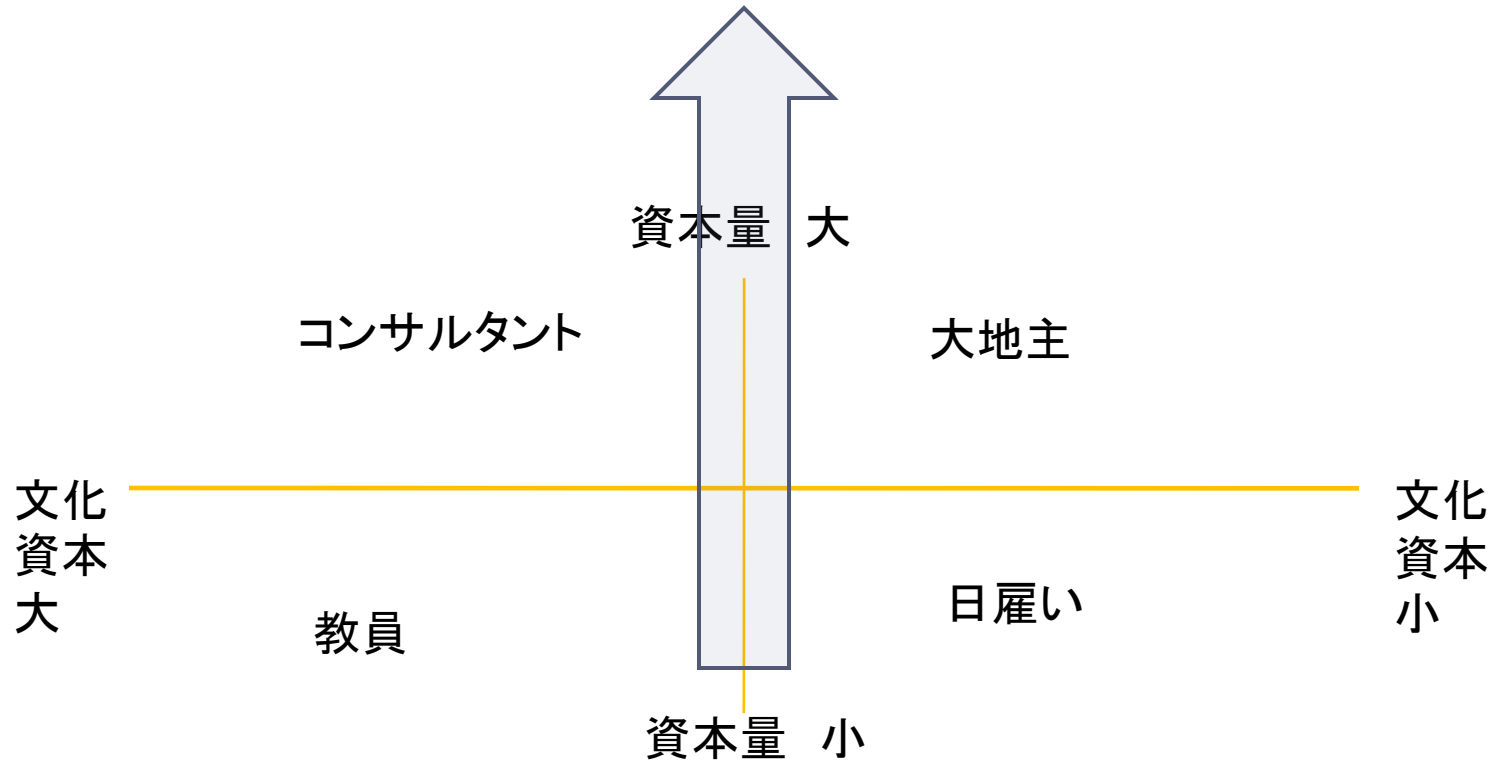
▶ 家族

- ▶ 一つのライフスタイル、一つの生活水準を共有する
-



4章 近代家族のゆくえ：階層分化

生活水準高い + 家族状況楽



4章 近代家族のゆくえ：家族責任増大と不平等拡大

- ▶ 愛情表現の潜在的必要性
 - ▶ 外部サービスの質の向上→家事労働の質を高度化
 - ▶ 国民の高学歴化→教育への家族的な投資
 - ▶ マスコミによる高度ライフスタイル宣伝
 - コミュニケーションとしての愛情が強制される

 - ▶ 「よい家族」の条件
 - ▶ (1) 十分な収入
 - ▶ (2) 家事をこなす時間・能力がある人がいる
 - ▶ (3) 弱者が少ない
-



4章 近代家族のゆくえ：女性の分裂

▶ 近代社会理念の実現

- ▶ 家事という無償労働から有償職業労働へ
- ▶ 情緒的存在から自己決定による生き方へ
- ▶ 男性優位社会から対等な関係へ

↑

恋愛感情によって担保



4章 近代家族のゆくえ：現代家族の危うさ

▶ 不満

- ▶ 家族責任負担を自分が背負う→過剰負担はゴメンこうむる
- ▶ 家族責任負担から逃れる人間→**適当量の負担要請**
- ▶ 愛情を受けとめてもらえない→**家族であることの意味低減**
- ▶ 好悪が本来もつ不安定さ→**嫌いな人とは別れたい**



近代原則：平等と自由
『おひとりさまの老後』

▶ 家族関係

ゲマイ
ンデ

親→子

夫婦

子→親

ゲセル
シャフト

